

日頃より城南区人権啓発連絡会議の活動にご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。

今年度はコロナ禍により、例年7月開催の「人権を考える集い」をはじめ、複数の事業を中止せざるを得ない状況となりました。このような中、感染者や医療関係者などへの心ない言動が問題となっています。正しい知識を持てば、過剰な不安や怖れにとらわれず、行動することができるはず。お互いを尊重しあい助け合う、そんな社会の実現を目指していきたいと考えています。

城南区人権啓発連絡会議会長 石橋 雄一



## 障害は価値に変わることができる

夫の死の3年後、私は大動脈解離を発症し、辛うじて命は救われましたが下半身まひになりました。最初は命があれば下半身まひくらいと思いましたが、時間とともに辛い現実を思い知らされました。自分のことが何一つできなくなっていました。誰の役にも立てなくなり、あの時なぜ死なせてくれなかったのかと死ぬことばかり考えていました。ある日、長女に「ママ死にたい」と言うと、驚くことに「死にたかったら死んでもいいよ」という返事が返ってきました。ただ「でもちょっと待って、まだ私高校2年生。もう少し私を支えて。ママの笑顔で支えられている。」という言葉で死ぬのを思いとどまりました。歩けなくてもできること、歩けないからできることを伝えようと思いました。



## ユニバーサルマナーと日本の惜しい! 現状

ユニバーサルマナーというのは【自分とは違う誰かのことを思いやり適切な理解のもと行動すること】です。特別な知識、高度な技術はいりません。これを必要とされている方々は、障がい者のみならず高齢者、ベビーカーを押している方です。これだけの人を合わせると人口の約38%にもなります。

障がい(バリア)は環境、意識、情報の3つです。環境の一つは段差です。車いすになってから段差によって沢山のことができなくなったことに気づきました。でも足しげく通うお店は段差があっても快く受け入れてくれること、サポートがあることが多いです。環境だけでなく心(意識)のバリアフリーが大切です。ハードとソフト二つの軸を整えることです。環境の整備にはお金も時間もスペースも必要です。そんな時に大事なのがソフトの部分です。『ハードは変えられなくてもハートは変えられる』今日から実践していただけたらと思います。そして情報のバリア解消です。バリアフリーな場所を知りたいときに役立つアプリがありますので、是非活用してほしいです。

ユニバーサルマナーを実践していく上で今の日本には惜しい現状があります。無関心と過剰です。ちょうどその間のさりげない配慮があればいいなと思います。それにはこの声かけ一つです。「何かお手伝いできることはありますか?(May I help you?)」私たちに手助けの選択肢をいただけたらと思います。

## いつでも笑顔

最後に私が大切にしていることは「いつでも笑顔」です。笑顔でいれば必ずいいことがある、笑顔はいいこと(幸せ)を引き寄せます。だから皆さんぜひ笑顔を持ち帰ってください。



## 第49回福岡市人権尊重週間 「人権を尊重する市民の集い」

令和2年12月9日に城南市民センターで開催された講演会の概要をご紹介します。なお、当日は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため座席の間隔を空けるなど定員を減らして実施しました。

講演会

### バリアバリューから社会を変える ～皆が求めるユニバーサルマナー～

日本ユニバーサルマナー協会理事・株式会社ミライロ講師 岸田 ひろ美さん



### 3つの転機

私の人生での転機はどれもが絶望でした。障がいのある長男の出産、夫の突然死、自身の下半身まひです。当時は死のうとまで思いつめたのですが、新しい人生を歩んでいくきっかけとなりました。

### 長男が教えてくれたこと

長男がダウン症で、この子を愛し育てられるのか?と不安でしたが、育てているうちに成長に時間はかかるが長女とあまり変わらないと思えるようになりました。ただ、皆に愛されるために「挨拶、ルールを守る、清潔にする」の3つを教えました。そして人と違うことを恐れず、むしろ障がいがあることで違う視点を持つことができるようになりました。

### 伝えられなかった「ありがとう」「ごめんね」

長女は夫が大好きでしたが反抗期で、ある日、口げんかになってしまい、「パパなんか死んでしまえばいい」と言った夜に夫は急性心筋梗塞で急逝しました。長女は自分のせいだと、ものすごく悔やみました。夫の死が教えてくれたのは【命には限りがある、時間は有限だ】でした。感謝や謝罪の言葉をすぐに伝えることで後悔は減らせるということでした。



# 令和2年度 校区人尊協の活動紹介

## 別府 校区

### 人権かるた

4年前から『人権かるた』作りに取り組んでいます。きっかけは人権を身近に感じてもらうにはどうしたらいいかということからでした。

別府にも昔から、いわれのあるゆかりの場所があるので、それを地図に載せ、子どもたちが探索するウォークラリー「べふウォッチ」を実施しました。終了後は感じたことを川柳的な言葉にまとめてもらいました。その中の何枚かはカルタの読み札になっています。

読み札は約50枚あります。人権と地域の要素を組み合わせるカルタにするのは非常に難しく、長い時間がかかってしまいました。

絵札は、自分たちで手分けをして描いたり、どうしてもうまく描けない時には知り合いを頼って描いてもらったりしました。また、皆で一緒にやったほうが良いアイデアが出るかもと合宿も実施しました。こちらも読み札同様に長い時間がかかりました。

志免町のNPO法人が人権かるたを作っていることを知り、見学も実施しました。様々な苦労や工夫を重ね、今年度ようやく日の目を見ることができそうです。



## 七隈 校区

### コロナ禍を考える座談会など

コロナ禍で様々な行事が中止に追い込まれる中、今できる人尊協の活動は何かを考えました。その中の3つを紹介します。



一つ目は、人尊協メンバーを中心とした座談会『コロナ差別を考える』を、2度にわたって開催しました。立場が違えば自粛に対する捉え方も様々なこと、助け合ったり応援したりしなければならないのに逆に差別してしまう事象が起こっていることなどを話し合いました。そして、正しい情報をもとにウイルスに最大限の注意を払いながら、予防をし、そして差別しないことが大切であるという共通理解をもち、広報紙に発信しました。

二つ目は、シトラスリボン運動の周知・拡大です。メッセージを添えたポケットティッシュを作りました。校区内のたくさんのお店や施設が置き場所の提供に協力してくださりました。

三つ目は、映画「あん」の鑑賞会です。ハンセン病元患者への差別を考える映画です。現在のコロナ禍の状況と共通するものがあり、差別解消への思いを新たにしました。



## 南片江 校区

### ピュアハートコンサート

「ピュアハート」は、ダウン症や発達障がいなど知的障がいのある6人の音楽バンドです。2004年11月「筑紫野市社会福祉大会」でデビューし16年目を迎えました。東日本大震災などの被災地支援を続けながら、世界を視野に「彼らだからできること」にチャレンジし演奏活動を行っています。



コンサートでは、「威風堂々」のオープニングに続き、クイーンやビートルズメドレーなどが披露されました。



令和2年11月1日(日)  
コンサート風景

また、代表の國友美枝子さんから、メンバーの職場紹介や楽器の選択、楽譜が読めないため36曲を身体で覚える工夫、コロナ禍で仕事の後の1日2時間の練習を10月に再開したこと、演奏の成長の度合いを鑑賞してほしいなどの話がありました。



ラストは、福岡ソフトバンクホークスのリーグ優勝を祝し「いざゆけ若鷹軍団」の演奏に全員で盛り上がりました。

演奏する姿は一生懸命で、勇気と感動を与えてくれるコンサートでした。「みんながやさしい、みんなにやさしいユニバーサル都市・福岡」がかたちになった演奏でした。

## 城南区生涯学習推進課

## コロナ禍の人権

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言で始まり、未だ「収束」時期さえ見えていない状況が続いています。このウイルス感染への恐怖などから、学校や職場、SNSなどで「心ない言動や差別、偏見」が大きな課題となっています。このような中、当課では、コロナ禍の今こそ人権を尊重し多様性を認め合う福岡市の実現を目指して「人権啓発ポスター」を作製しました。人間らしい相互の思いやりの気持ちを忘れず、コロナ禍の重大危機と一緒に乗り越え、Afterコロナも「人権」を大切にする素晴らしいまちにしていきたいと思います！

